

強迫症への認知行動療法ワークショップ開催に向けた
事前アンケートへの協力をお願い

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 行動医学研究部
部長 金 吉晴

<フォア教授スタッフによる OCD ワークショップのニーズ調査>

強迫症 (OCD) はしばしば治療が難しく、本人、家族の生活に著しい影響を与えています。OCD に対しては認知行動療法の有効性が広く認められていますが、その中でも Pennsylvania 大学不安治療研究センター (Center for the Treatment and Study of Anxiety: CTSA) のフォア Edna Foa 教授による OCD 治療のメソッドは、米国心理学会でも推奨され、治療効果のエビデンスに基づいており、世界的な標準となっています。その大きな特徴は想像エクスポージャーを系統的に組み入れていることにあります。私たちは同治療法のマニュアル、ワークブックを翻訳しており、近日中に出版予定です (<https://www.med.upenn.edu/ctsa/>)

それを期に、日本の参加者のために OCD のワークショップこのマニュアルに基づいた OCD 治療のワークショップを、Foa 先生のスタッフによってオンラインで開催することを計画しています。ワークショップは、日米をオンラインで結び、Foa 先生のスタッフが直接講義をし、質疑応答を受け付けます。講義は翻訳されます。また講義終了者は、Foa 先生の教室関係者によるスーパーバイズ(有料)を受ける資格ができ、将来はスーパーバイザーになる道も開けます。通常、このワークショップは4日間連続で開催されますが、今回は日米の時差を勘案し、以下のような形で開催することを検討しています。

開催時期 2024年2月上旬より

日時 毎週固定した曜日の朝、あるいは夕刻 2時間 計14回 合計28時間

講師 Sandy Capaldi, Jeremy Taylor (予定): Foa 教授の教室スタッフによる

形式 Zoom (予定) を用いた米国からのライブワークショップ

定員 50名

受講料 1500 米国ドル

対象者: NCNP による CBT 研修、PTSD の PE 研修の受講者、あるいはそれに準じた CBT の臨床スキルを有する臨床家。日本からの参加者が定員に達しない場合、他国の臨床家も参

加することがあります。

通訳 zoomによる自動字幕生成と翻訳機能を使用
自動翻訳のトラブルに備えて通訳1名を同席

講義内容、参加費、参加者定員は Pennsylvania 大学で通常開催されている、OCD ワークショップと同一です。zoom の翻訳機能を使うことによって、逐次通訳による時間の消費がなくなり、米国で通常行われている講義がそのまま受講できます。

正式に決定するにあたり、受講希望者がどのくらいいらっしゃるか、予備調査を行うことと致しました。つきましては、このワークショップについてのご関心の程度、またご参加のご意向、可能な条件について以下のアンケートへのご回答をお願いできませんでしょうか。

<https://jp.surveymonkey.com/r/8ZCV9S8>

(第一次回答期限 10 月 23 日、最終期限 10 月 28 日)

べ切が大変短くて恐縮ですが、どうか宜しくお願い致します。なお、このアンケートは、参加を義務づけたり、保証するものではありません。ワークショップの案内は改めてご連絡いたします。

御多用のところ、恐縮ですが、日本の OCD 治療の体系的な研修教育を根付かせるための企画と考えておりますので、アンケートへのご協力を宜しくお願い致します。